

わたしのすきな絵本

矢祭町長・矢祭町子ども「読書の街」づくり推進委員長 佐川 正一郎

ごあいさつ

乳幼児期の読み聞かせから始まる子どもの読書は、心身の発達的にも大きな役割を果たし、子どもたちが心豊かに、健やかに成長していくために重要なものです。

幼い子への親による読み聞かせは、親子のコミュニケーションの希薄化という現代の子育ての危機を修復する力を持っています。

子どもの頃にたくさん本を読んだことや、夢中で読んだ本が、大人になった今、どれほど役立っているかということを私たちは、経験で知っています。

コロナウイルスの感染予防緊急事態宣言を受けて、学校が休校となり、図書館も休館していますが、もったいない図書館では「福袋」形式での図書の貸出を継続しています。

不安定な時期だからこそ、家庭において、親子で「絵本を読みましょう。」本で知った一言が人生の支えになることもあります。本との出会いにより、感性や表現力を高め想像力を心豊かにして成長していきます。これからも、皆さんがたくさんの本との出会いがありますことを願うものです。

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(5月)

「ちょっとだけ」

さく 瀧村 有子 読んであげるなら 3才から
え 鈴木 永子 自分で読むなら 小学低学年から
出版社：福音館書店



絵本は未来を読むことができる。
“ちよっとだけ”を読むと身近な生活の中にあることです。
私の次女がこのような環境になると思
って楽しく読みました。
環境が変わりながら成長していく姿が
愛しいです。

<ご紹介者>



矢祭町長
佐川 正一郎

弟が生まれて、なっちゃんはお姉さんになりました。お母さんは赤ちゃんのお世話で忙しいので、いつもなっちゃんの要求に応じてあげられなくなりました。そこで、なっちゃんはいろんなことを自分ひとりでやってみます。お姉さんになったからと頑張るなっちゃん、でも、眠くなった時だけは、どうしてもお母さんに甘えたくくなります。お姉さんになったことで感じる切なさ、そしてそれを乗り越えることで成長していく子どもの姿を母親の深い愛情とともに描かれています。(矢祭もったいない図書館)